TOSSM & APKASS に参加して

ベリタス病院　古田　諒（2022 年入局）

2022 年 9 月 29 日から10 月 1 日までタイのパタヤで行われたTOSSM & APKASS（Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society）に発表者として参加したのでご報告させていただきます。

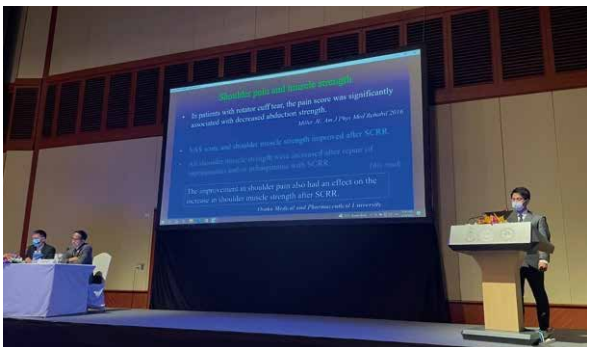
きっかけは長谷川先生から唐突に送られてきた、国際学会で発表しませんか、という 1 通のメールでした。三幡先生が講師として招待されており、他の肩班の先生方も何名か参加されるということでした。私は初期研修医の期間中にはコロナ禍のこともあり、院内の小さな集会での発表以外、学会発表をしたことがありませんでした。まずは国内の学会で発表を行い、ゆくゆくはいつか海外でも発表できたらいいなと考えていたところでのご連絡でした。こんな若造が早々に海外進出していいものかと一瞬戸惑いはありましたが、またとないチャンスでしたので参加させてくださいとすぐに返信しました。

演　題　は「Superior capsule reconstruction for reinforcement of arthroscopic rotator cuff repair improves shoulder muscle strength」です。SCRR は腱板修復術後の術後再断裂率を下げるだけでなく肩痛も改善し、それが術後の肩筋力の改善に繋がったという研究内容です。発表内容、スライドについては三幡先生、長谷川先生に何度も添削していただきながら準備を進めました。また第一東和会病院のリハビリにも見学に行き、PT の竹田先生に実際の SCRR 術後リハビリテーションを勉強させていただきました。

英語についても読み書きはそこまで苦手意識はありませんでしたが、英会話に関しては全くの初心者だったので、発表 1 ヶ月前くらいから間に合わせでオンライン英会話を始め、少しでも英語に慣れようと練習していました。学会発表をするとなると、大学でのリハーサルをしなければなりません。大勢の先生方の前で英語でリハーサルをするのは非常に緊張しましたし、当日は韓国から肩の先生が手術見学に来られていたのでその先生からの英語の質問等もあり、ほとんど学会と変わらない雰囲気なのではないかと思いました。

学会会場入り口のモニュメントで

そういった緊張した環境でのリハーサルのおかげで、学会発表当日はさほど緊張することなく無事に発表も終え、質疑応答も曖昧なことしか返答できていなかったかもしれませんがなんとか乗り切りました。ただ同じ発表グループにいたシンガポールの先生からの質問は、質問内容が長すぎて途中で何を言っているのか分からなくなり、たまたま同グルー



学会発表での 1 コマ

プでの発表だった内田先生に答えていただきました。

学会前日には現地の先生方との食事会に招いていただき、美味しいタイ料理をご馳走になりました。学会中にも他の先生方とお話をする機会もありましたが、なかなかすっと言葉が出てきませんでした。もっとスムーズに話せたらどんなに楽しいかと非常に悔しい思いもしたので、英会話も努力しようと思いました。

現地の先生方とのお食事

発表を終えたあとはホテルの屋上にあるジムとプールを往復したり、パタヤの街を散策したり束の間のスローライフを楽しみました。大学での日頃の勤務で少し疲れがたまっていたタイミングだったので、お休みをいただき良いリフレッシュにもなりました。もちろん遊んでばっかりいたのではなく、他の先生方や興味のある分野の発表を聞いたりしながら、合間にリフレッシュをしていました。

ホテル屋上のプール

すぐ横にジムもついてました

タイ　パタヤの夜の街並み

私は東南アジアの雰囲気や食事が好きで、タイには学生の頃にも一人旅に来たことがあります。このままここで永住も悪くないなと思いながら一人ぶらぶらと散策しました。実際に仕事をリタイアした欧米人がパタヤには多数移住してきているようであり、私も疲れたら移住してこようかなと考えたりしながら現地滞在を楽しみました。

今回発表の機会を下さった三幡先生、長谷川先生、学会に同行してくださった藤澤先生、伊丹先生、内田先生、垣内先生、ならびに学会出張を認めてくださった根尾教授をはじめとした大学の先生方に心より感謝を申し上げます。今後大学院に帰った暁には自分で研究した題材で学会発表をできるよう邁進いたします。今後とも変わらずご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

パタヤの夕焼けとともに